

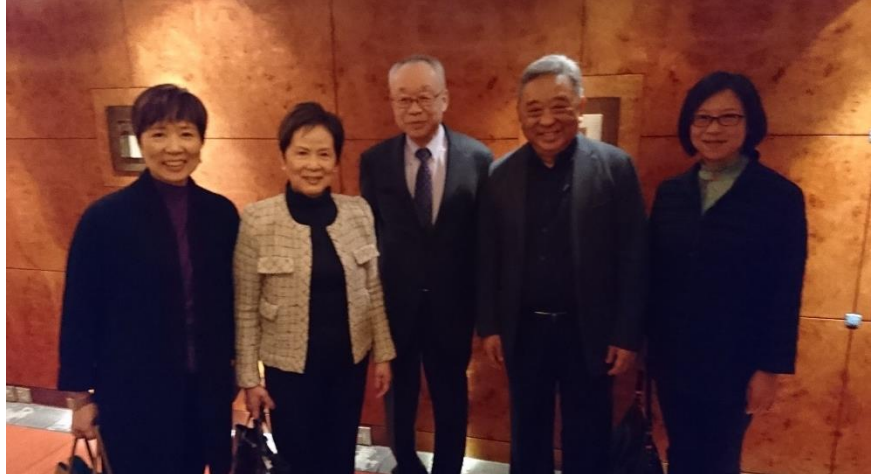


日中アジア、学生交流・奨学基金に私財 – 香港の篤志実業家曹基鏞氏を訪問

2017年1月12日（木）、曹基鏞（ロナルド・チャオ）氏をオフィスに訪問した。同氏は1958年東京大学工学部に入学。卒業後、米イリノイ大学で修士。香港に帰国して家業を継ぎ財をなした。「大学3年のとき、NPOの企画する学生交流のプログラムに参加する機会に恵まれ、3週間各国の留学生や日本人学生たちと寝食を共にし語りあった。そのときの仲間とは今も交流し人生を共有しています。」このことの大切さを次世代に伝え、アジアのリーダーを目指す若者を育成し、体験させたいとの思いから1000万米ドル（10数億円）を拠出し、百賢教育基金会を設立。自ら日中の大学を回って説得し、プログラムへの参加を呼びかけた。



（2016年来日時）



（左 曹恵婷理事長）（石坂芳男財団代表理事と曹基鏞氏）

同基金会はアジア次世代指導者奨学金プログラム The Asian Future Leaders Scholarship Program (AFLSP) を創設。AFLSP は、毎年100名余り、アジア次世代の指導者となることが期待される高い能力と向上心を持つ学生・研究者を選抜し、12～24ヶ月の奨学金を支給するプログラムを行っている。さらに、財団法人百賢亜洲研究院（東京）を百賢教育基金会の出資により設立、奨学金その他関連する教育プログラムを運営している。奨学金は6校のアンカー大学および百賢亜洲研究院が指定するパーティシペイティング大学の学部、修士・博士課程にて、学位取得を目指す希望者に対して、選考の上、支給される。財団にも基金にも、どこにも氏の名前が入っていない。

名前はいらない、が同氏の哲学。

アンカー大学：北京大学、浙江大学、香港科技大学、早稲田大学、一橋大学、京都大学

パーティシペイティング大学：清華大学、復旦大学、上海交通大学、香港大学、香港中文大学、台湾大学、ソウル国立大学、東京大学、慶應義塾大学、九州大学

日本が大好きな曹基鏞氏ご夫妻は、今も毎年、何度か訪日される。